すべては子どもたちの笑顔のために

東信教育事務所だより

# 響 ひびき

〒384-0006
小諸市与良町6-5-5
TEL.0267-31-0251
FAX.0267-31-0140

令和３年７月20日
No.３

プールに飛ぶ水滴が、夏の光をまばゆいばかりに反射させて、今日も暑さを教えてくれます。生暖かい風は、すっとシャツをすり抜けて、ほっとした笑顔をつくってくれます。
子どもたちは青空へ顔をあげて、夏に飛び出していきました。「次、何する？」なんて、ワクワクしながら、夏の遊びの中で成長していくのでしょう。

## 響　第３号「次、何する」 －もくじ－

授業から学ぶ　道徳の授業づくりで大切なこと　2
研修の窓　明日からの活力に
第1回授業づくり学級づくり研修会　3
研修の窓　どの教室でも応用できる日本語指導
第１回外国籍等児童生徒指導研修会　4
特色ある取組紹介
よりよい校内支援体制づくりを目指して　5
ＩＣＴ活用のススメ　基盤をつくり 活用を広げる　6
生涯学習課から
コミュニティスクールの推進に向けて　7

夏がやって来ました。先生方は、1学期のまとめを終えて、子どもたちの成長に手応えを感じているところではないでしょうか。2学期では、どんな楽しい学習をしようかなと、ワクワクしながら構想を練っていきましょう。
「次はこれをしよう。」と見通しを持つきっかけを見つけていただければ幸いです。

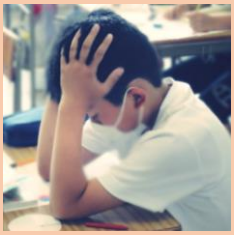
「響ひびき」これまでのバックナンバーはこちらからご覧になれます。
本誌掲載の実践などのより詳しい内容については、事務所までお問い合わせください。

授業から学ぶ
特別の教科 道徳
授業づくり

# 「あの子」「この子」の姿を豊かに想像する
## ~道徳の授業づくりで大切なこと~

道徳の授業を構想するにあたり、私たち教師は、常に追求していく子どもの姿を予想しています。道徳の授業構想における「予想される子どもの姿」には、実態の捉えと育ちへの願いが表されています。

予想は、
実態。



○教材「いっしょになって、わらっちゃだめだ」より（内容項目：節度、節制）
みのるが「ゆうじってサルに似てる」と言ったことから、教室は、サルの真似をするゆうじの姿を笑うようになった。これまで一緒になって笑っていたぼくは、あるとき自分を見つめ直し、次は「サル」の声やみんなの笑い声に乗らず、思いきって黙って教室を出て行った。それから教室は静かになった。

授業の前半では、一人一人の子どもの現段階での姿や価値観を想像し、時にはその子になったつもりで「あの子なら…」と、教材の内容や教師からの問いかけに反応するその子らしい姿を予想し、追求する「問い」を生み出しましょう。

教材との対面では、正義感のあるAさんを中心に、全体的には「ゆうじがかわいそう」「ゆるせない」など、善悪の判断や「ゆうじ」を思いやる気持ちを全面に出してくるだろう。その中でも特に気持ちの強い子なら「何で出ていくの？」と疑問を持つかもしれない。そこから「ぼく」の葛藤や行動の意味を考えられるように、度を超した状況にいる自分を想起して考えていこう。

授業の後半になると、子どもは、対話などの中で自己を表現したり他者の考えに触れたりして少しずつ考えが深まっていきます。そんな学習活動の中で考えを深めていく子どもの姿を想像することは、前半より一層難しくなるものです。けれども、ねらいに沿って構想し、講じていく手だてや学習活動には、考えを深めていく子どもたちの育ちへの願いがあるはずです。後半に想像される姿は、実態に願いを重ねて想像しましょう。

後半で「教室を出て行ったのは、どんなことを考えていたから？」と問いかければ、「ゆうじを助けたかった」「みんなに気づいてほしかった」など、正義感を発揮したぼくの考えが多く出てくるだろう。そうしたら「それが一番の助ける方法なのか」と問い返していこう。きっと「とめるのは難しいよ」という声から、度を超した状況に置かれた時の気持ちを想起して考えるだろう。そこから、「出て行った」行動の意味をグループで対話しながら考えてみよう。

そうしたら、きっと子どもたちはこんな姿を見せてくれるだろう。
「私はきっととめられない」「ここにいたら合わせてしまう」「自分ならやめろって言う」「今さら無理」「できないから出た」「自分をとめることはできる」「それも簡単じゃないよ」「出て行けるのも、すごい」「周りをとめる前に、自分がやめることをしたのか」「私も、自分ができることをしたい」

予想は、
願い。

目の前にいる「あの子」「この子」が、学習活動の中で考えを深めていく姿を、子ども一人一人が発する言葉で豊かに想像していきましょう。

研修の窓

# 明日からの活力に
# ～第１回授業づくり学級づくり研修会～

44名の先生方が参加、研修の様子を紹介します。

## おさえておこう！「授業づくり学級づくりの基礎・基本」（基礎研修）

【授業づくり】
子どもの願いを実現する授業をどのようにつくるかについて、全体で、「板書の仕方」や「学習問題」、「学習課題」とはどういうものなのか参会者の先生方同士で確認し合ったり、理科の事例等を基に参会者全員で共有したりしました。

- 違う校種の先生からの話も参考になった。子どもを見る視点で自分にはない視点があり、自分としても新しい発見となった。
- 板書づくり等、意外と基本的なところから子どもたちの興味を引き出せそうだと思ったので、明日から実践してみたい。

【学級づくり】
「理想の学級とは？」という問いから始まりました。参会者同士で自分の思い描く理想の学級について対話しながら

1 子どもを知ること
キーワード　受容的なかかわり
　　共感的なかかわり
2 子どもを理解すること
キーワード　子どもの傍らに寄り添う
　　事実をよく見る

について考えました。

- “子どもを知ること”をもっと積極的にやっていきたい。
- 表面的なことだけではなく、背景や理由に目を向け、考え理解しようとすることの大切さを知った。

「そうだったのか」「明日からやってみたい」という先生方の感想が多く聞かれました。よいと思ったことをまずはやってみる。その挑戦する気持ちを大切にしましょう。

## 明日から実践してみたい！（教科等分科会）

後半は、教科等領域ごとに分かれて「この単元の流れはどうすればよいのだろう」「子どもたちが必要感をもって話し合うためには何が必要なのだろう」等、子どもの姿を思い浮かべながら、単元や授業を構想したり、具体的な手だてを考えたりしました。

- 学んだこと、身に付いたことの振り返りや最終的な目的をもつことが、大事だということがわかった。（国語）
- 生徒が、伝えることを明確にして「このデザインでいいのだろうか」という疑問を語り合える時間をつくっていきたい。（美術）

悩んだり、疑問をもったりすることはありますが、それは、前へ進もうとしているからです。
子どものために明日への一歩を踏み出せるよう、今後の研修も先生方のお手伝いができたらと思います。

≪授業づくり学級づくり研修会の予定≫
◇第３回　期日：　11月15日（月）
◇第４回　期日：　１月14日（金）
先生方のご参加をお待ちしています！

研修の窓

# どの教室でも応用できる日本語指導
## ～第１回外国籍等児童生徒指導研修会～

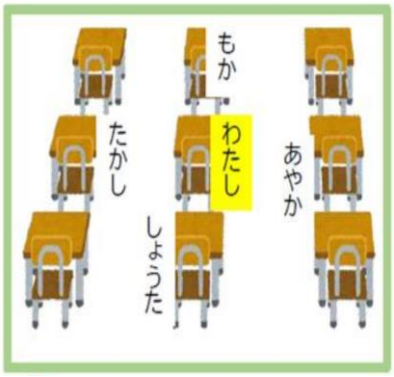
６月にオンラインで行われた研修会では、日本語指導教員と共に、多くの担任の先生や教育委員会の方に参加していただきました。研修では、どの教室の児童生徒にも有効な日本語指導の基礎を学びました。紹介します。

## 日本語指導の基礎　「子どもの日本語教育」の理論と方法

日本語指導基礎では、日々の生活でたくさん耳にしている日本語について、文字や文型などを整理し、規則を学び、使えるようにするための学習をします。多様な生活・学習場面で、その表現を利用する経験をさせることがポイントです。同じ文型や文字のドリル学習を続けさせることのないように留意して、1文での練習から会話・文章での活動へ広げていきます。

**こんな演習をしました**
在日６か月小学校低学年の李さん。教室の中で使う物の名称を知り、生活場面で使えるようにするには、先生方は、どのように指導をしますか。

【指導例】
①机、椅子に貼ってある名前を見ながら、聞く話す練習。しょうたさんの机、しょうたさんの椅子、あやかさんの机、たかしさんの机などと練習。
②友達の机、椅子探しゲーム。教室の机に友達の名前の名札を貼る。教師は、しょうたさんの机椅子はどれと尋ね、子どもは、これ。しょうたさんの机、椅子などと答える。
③教室で、実物を見ながら音を聞いて発話。音を聞いて物を指す、実物を見て語を言う、文字を見て音読して物を指す。




## 日本語指導の基礎　「やさしい日本語」について

「やさしい日本語」は阪神・淡路大震災（1995年）等をきっかけにして、日本に住むすべての人が、分かりやすい日本語を使おうと広がった考え方です。
研修でも、外国籍等児童生徒に関わらず、全ての人にやさしい日本語の使用について考えました。分かりやすく伝えることで、子どもや保護者との距離がぐっと縮まることもあるかもしれません。

- 必要な情報を選ぶ
- 一文を短くする（文を分ける）

○○市に台風が接近していますので、明日は休校になるかもしれませんが、その際には改めてご連絡いたします。

主語をつける

（例）台風が来ます。明日、学校は休みになるかもしれません。学校が休みのときは、私からもう一度連絡します。

＜参加者の声＞
日本語教室でも原級でも共通した指導について考えることができました。明日からの実践に役立つ内容が多かったので、早速取り組みたいと思います。中級の指導法についても研修したいです。

指導法について、「初めて知り有効であると感じたのでぜひ使ってみたい」といった先生方の意見が多く出されました。どの教室でも使えると思います。
第2回外国籍等児童生徒研修会は**１１月１６日（火）上田市立神川小学校**で授業研究会を予定しています。ぜひご参加ください。

特色ある
取組紹介

# 子どもたちの笑顔のために
## ～よりよい校内支援体制づくりを目指して～

各学校において、生徒指導や教育相談にかかわって校内できめ細かな対応していると思います。学校と専門家が連携し、不登校の生徒それぞれに合った支援を考えることに取り組んでいるＡ中学校の紹介します。

Ａ中学校では、不登校、不登校傾向の生徒に対して、以下のような支援体制を構築し、支援にあたっています。

### ①　不登校対策委員会

【内容】
・不登校の生徒の現状や支援方法、うまくいっていること、困っていること、課題等について、討議する

【回数等】
月４回程度（第１週　１年、第２週　２年、第３週　３年）
毎週木曜日の第３校時に実施

【参加メンバー】
不登校コーディネーター（教務主任）、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、各学年副担任
心の相談支援員、教頭

**取組のよさ①**
**会議は決まった曜日、時間に位置づけている**
**→計画的に討議できる**

### ②　スクリーニング会議

【内容】
・不登校の生徒の今の様子を情報共有し、今後の支援を考える
・校外の専門家が参加し、様々な角度からより的確に支援方法を導き出す
・学校が行うこと、校外の専門機関が行うことを決めだし、役割分担をする

【回数等】
月１回（第４週木曜日の第３校時）、年間10回実施

【参加メンバー】
◇校内
不登校コーディネーター（教務主任）、特別支援教育コーディネーター、養護教諭、各学年副担任
心の相談支援員、校長、教頭
※必要により、学級担任や生徒指導主事が参加

◇校外
スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー
Ｂ市教育委員会相談所指導主事
Ｂ市発達相談センター
Ｂ市子育て子育ち支援課
Ｃ圏域障がい者支援センター

**取組のよさ②**
**決められた時間内で会議を行う**
**→会議内容を精選することが必要となり、情報共有と具体的な支援内容を考えあうことに注力できる**
**→参加者の負担軽減につながる**

**取組のよさ③**
**校外の専門家が参加する**
**→外部機関との連携、役割分担ができ、継続的な支援につなげることができる**
**→様々な視点から、子どもを捉えることができ、よりよい支援を導き出すことができる**

先生方から「子どもの話を校内の先生ともっとしたいが時間が取れない」という声をお聞きすることがあります。Ａ中学校の校内支援体制をつくり、さらに専門家との連携もしながら、子どもの様子を共有し、よりよい支援を考える取組を参考にしてみてください。
なお、県教育委員会HPに専門家を活用した校内体制づくりのリーフレット「子どもたちの笑顔と未来のために」があります。こちらもご覧ください。

長野県教育委員会　リーフレット
「子どもたちの笑顔と未来のために」

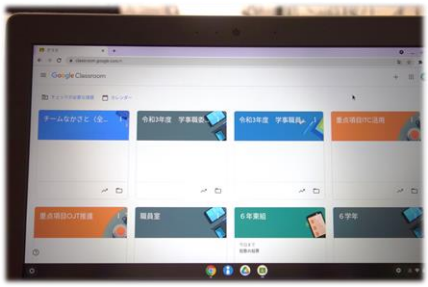
ＩＣＴ活用
の
ススメ

# 基盤をつくり　活用を広げる
## ～N小学校の取組を紹介します～

N小学校では、ICT端末の先生方・子どもたちの活用が始まっています。「さらに、校内のすべての先生方、子どもたちの活用に広げていきたい」という願いがあるN小学校の様子をお伝えします。

### 日常化への最初の一歩
### ～活用への基盤をつくる～

N小学校では、「活用への基盤」ができあがっていると感じました



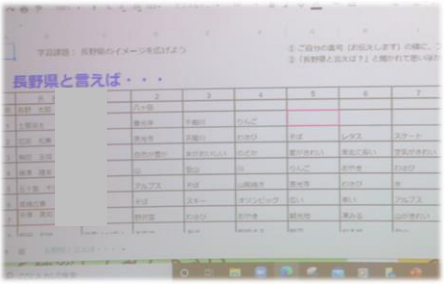
職員用、各クラスの「Google　classroom」が開設されていました。（開設はICT支援員に依頼）

研修会の座席も工夫。ICTが得意な先生と、これから覚えていきたい先生をペアにした座席。

活用の手始めとして、児童に、写真を１枚撮って教師に送信するという課題を出していました。

### 職員研修会の様子
### ～付箋ツール、アンケートツール等を用いて～

活用がすべての先生に広がるように、３つのアプリを用いて「共同編集」の体験をしました




社会科の授業の導入を想定した演習。「長野県と言えば…」思いつくことをスプレッドシートに同時に打ち込む。

他の先生の意見を見ながら、「Ａ先生らしいね」と笑顔で声を上げる先生もいました。

さらに、「授業のどんな場面でこうしたアプリが使えそうか」を話し合いました。タブレットやアプリを目の前に話し合うことで、国語や算数など、具体的な教科や授業場面を想像しながら意見交換がなされました。

### 先生方の感想

「共同編集」を体験してみて、授業のグループ活動で使えそうだなと思いました。校内でどんな場面で使えそうかさらに話し合いながら使ったみたいです。

ジャムボードやフォームなど、難しそうかなと思っていましたが、使ってみると意外と簡単でした。子どもたちとも使ってみたいです。

**東信教育事務所で作成し、各学校に４月２２日に送付した『ICT端末＆クラウドスタートブック』を是非ご活用ください。**

生涯学習課から

# コミュニティスクールの推進に向けて
## ～地域と共にある学校づくりについて～

教頭会でいただいたご意見にお答えします。

### どうやってコーディネータをみつけたらいいの？

◇教育委員会に相談しましょう。

教育委員会が社会教育に係る人材等の情報を学校に提供してくれます。地域には、社会教育委員と言われる、地域の課題解決に係る活動や地域づくり等に重点を置き、地域住民の参画を促進しつつ、効果的に推進する人がいます。先日、教育委員会の社会教育担当者や社会教育委員は、長野大学の早坂淳先生を講師に招き、ＣＳについての研修をしました。

◇公民館と連携しましょう。

公民館は地域の核となり、地域の大人をつなぐ役割を果たし、多くの講座が開かれ、地域の人材を把握しています。教育委員会に所属する公民館の館長や公民館主事といった公民館職員がコーディネーターを担っている学校も多く見られます。

### 学習支援ボランティアの必要性、要望が出てきています。どのように進めたらいいの？

◇新しい人材の確保の例

・新聞や公民館報にボランティア募集の記事を入れたり、回覧板にチラシを入れたりして地域住民に呼びかけてみましょう。

まずは支援してもらう学年や教科を絞ることで、ボランティアの確保がしやすくなるかもしれません。

・近隣にある大学や高校の学生に協力してもらいましょう。

教えてもらう児童生徒のためだけでなく、ボランティアにとっても地域とのつながりができます。

◇学習支援の仕方

〇日常の授業の学習支援の例

・小学校では、算数の九九の暗唱テスト、家庭科の裁縫やアイロンの使用時、体力測定などに入ってもらいます。

・ある中学校では、１年生の数学に絞って学習支援を行っています。授業のスライドをボランティアにお知らせし、都合の良い時間を調整して来てもらいます。時には、同じ教室に３人のボランティアが入っていることもあります。

〇放課後の学習支援の例

・普段は学習支援ボランティアと先生が一緒に支援を行っています。

・職員会議等があるときには、完全にボランティアに任せています。下校するところまでボランティアで対応してくれています。

### 国ＣＳへの移行はどうなるの？

設置義務化になるかはまだ方向性が出ていません。情報が分かり次第お伝えしていきます。国ＣＳを行っている学校では、学校運営協議会で学校運営の基本方針の承認を得るため、説明を丁寧にする必要はありますが、学校としては信州型ＣＳと大きく異なることはありません。